

救急医療を中心に
地域と密着した信頼される医療へ

医療法人 健康会

 霧島記念病院

Kirishima Memorial Hospital





病院理念 親切・愛情・努力・健康

基本理念

- 一、相互信頼の医療を目指します
- 一、地域の保健・医療・福祉機関と連携し救急医療・災害医療に貢献します

基本方針

- 一、人権を尊重し、個々人の価値観に配慮します
- 一、患者さんの権利を尊重し、十分な説明と同意のもとに安全な医療を提供します
- 一、専門職として研鑽を積み良質なチーム医療を実践します
- 一、健康管理に留意し、働き甲斐のある職場環境を作ります





理事長・脳神経外科医

平原 一穂

Kazuho Hirahara

- ・昭和52年鹿児島大学医学部卒業
- ・鹿児島大学医学部脳神経外科入局、医学博士取得
- ・鹿児島県立大島病院脳神経外科部長
- ・鹿児島県立北薩病院脳神経外科部長
- ・鹿児島大学医学部脳神経外科講師
- ・串木野市医師会立脳神経外科病院副院長
- ・鹿児島市立病院脳神経外科部長、副院長
- ・霧島記念病院理事長兼院長、現在に至る
- ・南カルフォルニア大学留学（福島孝徳教授に師事）
- ・ドイツ、マインツ大学留学（パルネットキー教授に師事）
- ・専門
脳神経外科専門医、頭痛専門医・指導医、脳卒中専門医、脳神経外科全般、特に脳血管障害、頭部外傷、良性脳腫瘍、機能的脳神経外科



日々に新たに、セレンディピティー

2020年10月に理事長を拝命し5年が経過しました。当院の現況をお知らせします。

当院は一般病棟(48床、うち地域包括ケア病床15床)、回復期リハビリテーション病棟(39床)、療養病棟(54床)のケアミックス型病院です。

脳神経外科、救急科、内科、外科、血管外科、整形外科を標榜しており、年間約1000件の救急車の受け入れを行っています。今年2025年3月には救急科、日本内科学会認定 総合内科専門医、4月には血管外科医師を新たに常勤医として招聘し、診療体制を拡大しました。脳神経外科では、開頭手術以外に、脳血管内治療(脳動脈瘤コイル塞栓術、脳梗塞に対して血栓溶解術、血栓回収術、頸部内頸動脈狭窄にたいしてステント留置術)なども積極的に実施しています。専門外来として脳ドック、頭痛外来を開設しています。日本脳卒中学会から1次脳卒中センターに認定され、急性期脳卒中診療をさらに充実させています。今年からアルツハイマー型認知症の前段階である軽度認知機能低下(MCI)に対しての薬物療法も開始しました。

また当院は全日本病院協会災害時医療支援活動班(AMAT)、災害派遣医療チーム(DMAT)の指定病院でもあり、これまで2016年の熊本地震や2020年の新型コロナ感染症への対応にも参画し、災害医療にも貢献できるようになりました。

霧島医療圏では年間300~400名前後の患者さんが霧島地区から他の診療圏に搬送されており、この内半数以上は霧島地区の病院で対応可能な疾患です。今後これらの患者さんが地元の霧島地区で適切な医療を速やかに受けられるようにするには、急性期疾患を受け入れている医療機関が連携し、円滑な協力体制を構築する必要があると思われます。

当院もその一旦が担えるように体制をさらに整備していきたいと考えています。

当院に搬送される救急患者の約4割が脳神経外科関連(頭部外傷、脳卒中、脳腫瘍など)ですが、約6割は脳神経外科以外の救急(主に外傷、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患)を受け入れています。この脳神経外科以外の患者さんの内、1割から2割は重症度と専門性を勘案して他院に紹介搬送していますが、これらの患者さんにも対応出来るように医師のリクルートを計画しています。

当院の喫緊の課題は、病院が築48年と老朽化しており、構造的にも問題があるため、新病院新築移転が必要なことです。現在CHCP(地域ヘルスケア連携基盤)の支援の元、病院体制の刷新のために6つのプロジェクトチームを立ち上げ、鋭意準備を進めており、皆様から信頼され、地域医療にさらに貢献できる病院作りを目指したいと考えております。

私の好きな言葉が2つあります。一つは、「日に新たに、日に新たに、また日に新たなり」という中国古代の殷王朝の湯王の言葉です。日常の業務や作業の中には、機械的、事務的に行っているものが幾つもあると思いますが、その業務や作業に何かしら新しい工夫を加えられないかを時々考えて見るのが大切であると思います。より良い業務内容に刷新する機会が隠れているからです。もう一つは「セレンディピティ」という言葉です。イギリスの作家ウォルポールの造語ですが、何かを探している最中に、それとは別のものを偶然発見すること、ふとした偶然から幸運をつかみ取るという意味で用いられています。日頃の業務の中にも何かしら思わぬ「新たな発見」をすることがあり、とても「幸せな気分」になります。

病院が組織として力を発揮するには、組織の要となる縦の糸、すなわちルール『令』と組織の潤滑油ともなる横の糸、すなわち相互信頼、相互理解のための『和』を尊重することが大切で、現在の『令和』の精神にふさわしいと思います。

現在当院では196名の職員が、それぞれの部署で患者さんの治療や療養の支援を行っていますが、職員との話し合いの『和』を大切にして、今後も「日に新たに、セレンディピティ」という気持ちを忘れずに一丸となって新病院移転に向けて邁進していきたいと思っています。当院が地域医療にさらに貢献できるように今後ともよろしくご指導、ご鞭撻、ご協力をお願い申し上げます。

[脳神経外科] *Neurosurgery*



「チーム」で迅速な脳卒中・頭部外傷救急を

手足に力が入らない、手足のシビレ、手足のふるえ、ろれつが回らない、言葉が出ない、頭痛、物忘れ、認知症状、顔のゆがみやピクツキ、顔面の痛み、全身けいれんなどの症状がある場合、脳腫瘍、脳卒中、変性疾患、顔面けいれん、三叉神経痛、水頭症、認知症、髄膜炎などの感染症、てんかん、片頭痛、群発頭痛などの疾患が発見されることがあります。

急性期脳卒中診療、頭部外傷救急診療

脳卒中診療、頭部外傷診療を 24 時間体制で行っています。CT、MRI、脳血管造影装置を用いて迅速に診断し、血腫除去術（開頭術・穿頭術）、脳動脈瘤頸部クリッピング術や血栓溶解療法（t-PA）、血栓回収療法などの血管内治療を行っています。

[内 科] *General internal medicine*



身近な不安に、丁寧にこたえる場所

広範な知識と技術を持った日本内科学会認定 総合内科専門医が、内科の9つの領域（消化器、循環器など）にわたって幅広い診療を行います。特定の疾患に特化するのではなく、患者さんの全体的な健康状態を把握しさまざまな内科的疾患を診断・治療することを専門とする医療分野で幅広い患者層を扱います。

内科のどの診療科を受診すればよいのかわからない場合や、複数の症状がある場合にご相談ください。

主な特徴

1. 多様な疾患への対応
高血圧、糖尿病、呼吸器疾患、消化器疾患、感染症など、幅広い内科的問題に対応します。
2. 患者中心のアプローチ
患者の生活習慣や背景を考慮し、個別の治療計画を立てることが重視されます。
3. 連携と調整
他の専門医や医療チームとの連携を行い、必要に応じて専門的な治療を受けるための調整を行います。
4. 予防医療
疾患の早期発見や予防に力を入れ、健康管理全般に関与します。

[血管外科] vascular surgery



カテーテルから手術まで。幅広い治療で血管を守る

血管外科は、心臓と脳以外の全身の血管(動脈、静脈)の疾患を扱う診療科です。下肢静脈瘤、動脈硬化症、動脈瘤などの疾患を扱います。

診察・治療をご希望の方はご相談ください。

下肢静脈瘤とは

下肢静脈瘤とは、下肢の静脈が拡張して、こぶ(瘤)ができる病気です。

血液が静脈内で逆流することによって発生し、瘤ができる等の症状が現れます。

下肢静脈瘤は、放置すると症状が悪化することがありますので、早期の診断と治療が重要です。疑わしい症状がある場合は、ご相談ください。

[整形外科] orthopedic surgery



患者さんに寄り添う医療を目指し

整形外科は運動器の疾患を扱う診療科です。

スポーツ障害や交通外傷、労働災害などに代表される打撲、捻挫、骨折などの外傷は勿論のこと、変形性変化を伴う加齢疾患、骨粗鬆症、関節リウマチ、痛風、運動器の腫瘍など、幅広い患者層を扱います。

症状でお悩みでしたらお気軽にご相談ください。

手術について

高齢者の方々によく起こる大腿骨頸部骨折、肩から上腕の骨折、手関節周囲の骨折などの手術を行っております。

[外 科] Surgery



一人ひとりに、確かな手と、あたたかなケアを

対象となる疾患は、一般外傷、腹部外傷、熱傷などの外傷性疾患や胃、大腸を主とした消化管や肝臓、胆道、膵などの消化器系実臓器疾患のほか、乳腺、腹壁や肛門疾患などがあります。

当院では、主に外傷性疾患や良性疾患等の診察・治療を行います。場合によっては外科的治療が必要になります。

診察・治療をご希望の方はご相談ください。

[救 急 科] Emergency medical care



24 時間体制で取り組む救急医療へ

当院では24時間体制で、医師、看護師、救急救命士、診療放射線技師、臨床検査技師等がチームとして迅速に救急診療を行っています。

外傷をはじめ、頭痛、腹痛、胸が苦しいなどの救急疾患に対応しています。救急疾患は、搬入されてから治療開始までの時間が短いほど、救命率が上昇し、治療までの時間が短縮されます。日々の診療を振り返り、チームとして評価、修正、フィードバックを行いながらさらなる改善を図っています。

ドクターカー

当院では、ドクターカーとラピットカーを各1台保有しています。救急現場でのいち早い医療介入を目指し高度な医療を提供したいと考えています。





“いつもと違う” に、ちゃんと向き合う外来

当院外来では地域に根ざした医療を掲げ、一般診療と24時間体制で取り組む救急医療で構成されています。外来診察の際に患者さんのお話を伺い、必要に応じて、栄養士と連携し栄養指導を行ったり、内服管理のため薬剤師と連携を図っています。

初めて診療を受けられる方へ

- ・当院は原則として予約制です。
※急患は24時間対応していますので電話（0995-47-3100）にてお問い合わせください。
- ・当院へかかりつけ変更希望の患者さんは、他の医療機関等からの紹介状（診療情報提供書）をお持ちください。また内服しているお薬がある方は、お薬手帳をお持ちください。
- ・紹介状（診療情報提供書）を持参することで医師は患者さんの病状を迅速に把握することができ、検査の重複を防ぐことができます。
- ・できるだけ速やかに診療するよう配慮していますが、予約がない場合や救急・急変対応で待ち時間が長くなる場合がありますのでご了承ください。

再診の患者様へ

- ・当院は原則として予約制です。
- ・診療が継続している方、定期的に通院している方は、必ず次回の予約をお取りください。予約が確定できない時は、後日電話で予約をお取りください。予約がなく受診された場合は、待ち時間が長くなる場合がありますのでご了承ください。



病棟のご紹介

Introduction

当院では脳血管疾患、整形外科疾患、一般内科疾患の急性期～回復期およびリハビリテーション病棟、療養病棟）を持ち一貫して治療を行うことができます。

一般病棟

General Ward

急性期疾患の治療・回復を目的としている病棟です。検査・手術が必要な患者さん、脳血管疾患や整形外科を中心に、集中的な治療が必要な時期から、症状が安定してくる時期までの患者さんを受け入れています。

急性期治療後に、さらなるリハビリテーションや長期療養、ご自宅や介護施設への復帰に向けた支援が必要となった場合には、疾患の状態に応じた「地域包括ケア病床」「回復期リハビリ病棟」「医療療養病棟」での入院継続を検討します。



地域包括ケア病床

Community Comprehensive Care Ward

急性期治療を終え、症状の安定した患者さんへ、入院での継続的なリハビリテーション、ご自宅へ退院するための住環境調整・福祉サービス利用支援を行います。患者さんが安心してご自宅に退院していただくための準備を行う病棟です。

基礎疾患や状態に応じて、ご自宅からのレスパイト入院の相談も受け付けています。

●レスパイト入院とは…

在宅での介護を担われているご家族が、在宅介護が困難となった場合に一時的に入院の受け入れを行い、介護者の負担軽減を目指す仕組みです。当院の地域包括ケア病床では、介護者の負担軽減の他、病気、入院、冠婚葬祭などで在宅看護が困難となった場合に、医療保険で短期入院を受け入れています。



of the Ward

持期まで、複数の病床機能(一般病棟、地域包括ケア病床、回復期リハビリ

回復期リハビリテーション病棟

Convalescent rehabilitation ward

回復期病棟では脳血管疾患や骨折などの整形外科疾患に対して急性期から症状が安定した患者さんの身体機能回復・向上を中心にリハビリを行い家庭復帰や社会復帰を目指す病棟となります。

病棟では、個々の患者さんの症状に応じた訓練を看護師も行っており、また月に1回担当の看護師・リハビリ(OT・PT・ST) 社会福祉士にてカンファレンスを行い患者さんにあった目標を設定しそれに合わせたリハビリを行っています。

患者さん、家族を中心に各専門職(医師・看護師・リハビリ・社会福祉士・栄養士・薬剤師) が退院に向けて全力でサポートしていきます。



療養病棟

Medical treatment Ward

療養病棟は急性期医療の治療を終えても引き続き看護、介護を必要としている患者さんに対してケアを行っている病棟です。

入院生活が長期にわたる為、患者さん1人ひとりと向き合い個別性を考慮したケアを心がけています。

患者さんと向き合い、目配り・気配り・心配りの姿勢を大切にし寄り添い、安心して療養生活が送れるようにスタッフ一同取り組んでいます。





リハビリテーション部

病気や怪我により日常生活に不自由を強いられている患者さんが、入院生活・退院後の生活においても、にこやかに、そして希望をもって自分らしくお過ごしていただけるよう常に真心のこもったリハビリを提供し、患者さんの心に寄り添えるよう日々精進しております。

また入院中の患者さんのご家族におかれましては、リハビリの見学も随時、可能となっておりますのでご相談ください。



Kirishima Memorial Hospital

リハビリテーション部 スタッフ



理学療法士
18名



作業療法士
12名



言語聴覚士
9名



理学療法課

脳卒中等により失われた機能を取り戻すため、関節を動かしたり、筋力をつける練習、随意的運動をできるようにする促通訓練、基本的な生活動作（起きる、座る、立つ、歩く）の練習・自立支援を行います。治療には体操や運動を利用する運動療法、電気・温熱・寒冷を用いる物理療法があります。



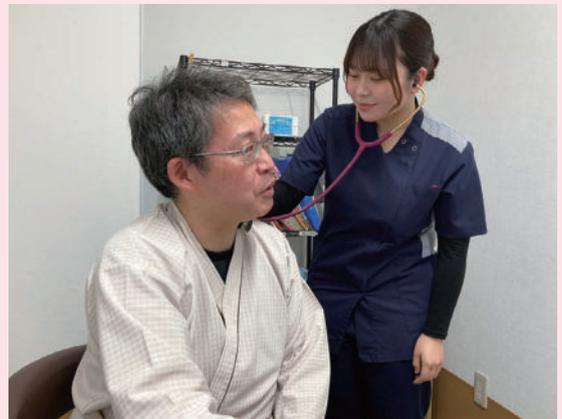
作業療法課

身体や精神の障害に対し、作業活動を用いて、生活動作（食事、トイレなど）や家事動作の訓練を行います。退院前には自宅の訪問調査を実施し、患者さんやご家族が安全で快適に生活できるように支援します。近年は、運転に不安を抱えている方やそのご家族から相談を受け、必要に応じて評価やリハビリを行っています。



言語聴覚課

話すことや食べることがうまく行えない方にと言語聴覚療法を行っています。現在の主な患者さんは脳卒中等によりコミュニケーション障害、ご飯の呑み込みがうまくできない摂食嚥下障害などを呈した方です。



●リハビリ提供単位数(1単位は20分間)

急性期病棟



平均 4.0単位/日

回復期病棟



平均 6.5単位/日

手術室

Operating Room



患者さんにやさしい最先端の治療法

手術室は医師、看護師、中央材料室スタッフ、非常勤麻酔科医で運営しています。看護師は外来や病棟と兼任スタッフですが、手術室経験が10年以上あります。時間外の緊急手術に対しても5名の待機制で対応しています。脳神経外科は、脳卒中(くも膜下出血・脳内出血)、頭部外傷などの救急疾患から、脳腫瘍、三叉神経痛、顔面けいれん、水頭症などの手術を行っています。整形外科は骨折などの外傷の手術を中心にしています。手術室は1室ですが、SPDなどで消耗品補充等の業務を工夫し、安全な手術室運営が出来るよう日々努力しています。



手術用ナビゲーション

実際の術野の位置情報を座標化し、これを術前に撮影した画像上に反映させ術中の位置確認を行う画像支援システムです。これにより術者は、3次元的な術野を確認しながら手術が進行でき、より安全で的確な手術操作が可能となります。



手術顕微鏡

術者および助手が患部の鮮明な拡大観察が行える顕微鏡です。フットスイッチにより足で倍率の上下、フォーカスなどの調整を行い、術者は2本の手を最大限に活用でき、鮮明な観察画像を確認しながら安全で的確な手術が可能となります。

放射線課 *Radiology Department*



放射線課では、病気の早期発見、小さな病変の検出が可能な高度医療機器を所有し救急医療・脳神経外科を軸に対応しています。頭部のみならず体幹部や四肢撮影、全身の救急撮影に対応し頭頸部血管や大動脈～四肢血管、冠動脈といった血管系・臓器腫瘍に対する造影CT検査も行っています。MRIにおいても頭部はもちろんのこと脊椎や四肢といった整形領域、下肢血管といった検査も行っており、また骨密度測定(DEXA)や外科用イメージを使用した嚥下造影検査(VF)、その他にも血管造影装置を用いたくも膜下出血に対するコイル塞栓術、急性期脳梗塞に対する血栓回収術も24時間体制で対応しています。

年々の医療技術の進化に対し我々診療放射線技師も日々研鑽し、患者さんに寄り添い質の高い画像の提供ができるよう心がけています。これからも「迅速」かつ「丁寧」で「安全」な画像検査を提供致します。

臨床検査課 *Laboratory Test*



臨床検査課では、患者さんの血液や尿などを検査する「検体検査」と、心電図や脳波検査や超音波検査など患者さんに接しながら検査する「生理検査」を行っています。

検体検査では体に含まれる様々な成分を分析して体の状態を把握します。

生理検査は機械で得られた波形や画像により診断の補助をします。

臨床検査課はチーム医療の一員として、迅速かつ正確な検査結果を提供し、患者さんが適切な診療を受けられるように日々努めています。

臨床工学課 *Clinical Engineering*

【当院での主な業務】

・ME 機器管理業務

生命維持管理装置(人工呼吸器)、輸液ポンプ、シリンジポンプ、除細動装置等を管理し、これらを安全に使用できるよう保守・点検を行っています。

・高気圧酸素治療業務

高い気圧環境の中で酸素を吸入することにより、通常に得られる酸素量に比較して10～20倍の酸素を体内に取り込むことができ、手足の先端まで行き渡らせ、あらゆる低酸素状態の改善を図ります。

血管新生、組織修復に働きかけ創傷治癒に促進効果を発揮、また、一酸化炭素中毒などで体内に蓄積された有毒ガスの洗い出しに対しても働きます。

当院ではおもに脳梗塞・動脈血行障害などの疾患に担当医の指示の下で臨床工学技士が携わり治療を行っています。



安心・安全で信頼できる薬物医療を提供します



薬剤課 *Pharmaceutical Department*

薬剤課は、患者さん一人ひとりに安全で質の高い薬物療法を提供するため、専門知識を持つ薬剤師がチーム医療の一員として、様々な業務を行っています。

医師の処方箋に基づき、患者さんの年齢・症状・体質などを考慮したお薬の調剤、飲み間違い防止のための錠剤一包化、入院時の持参薬確認、患者さんにわかりやすいお薬説明を行っています。また、病院内で使用する医薬品の品質管理や在庫管理、医師・看護師など、医療スタッフと連携し、情報共有や意見交換を行い、安全で効果的な薬物療法を提供しています。

退院後も、地域の医療機関と積極的に連携しお薬を通してより良い医療が提供できるよう取り組んでいます。

薬剤課の業務

- ▶ 医薬品情報提供 (DI 業務)
 - ▶ 病棟薬剤業務
 - ▶ 服薬説明
 - ▶ お薬に関する問い合わせ対応
 - ▶ 医薬品管理・供給
 - ▶ 各委員会への参加
- ▶ 導入機器
 - 電子カルテシステム
 - オーダーリングシステム
 - 全自動錠剤分包機

連携したチームで栄養サポート実践



栄養課 *Pharmaceutical Department*

栄養管理は、患者さんの病態などに応じて、適切に実施されなければなりません。

個々に適切な栄養管理を行うことが栄養サポート (nutrition support) であり、それを実践するには、関連する他職種との共同作業が必須となります。

当院では、医師、看護師、薬剤師、言語聴覚士などの多職種が連携し、患者さんの栄養サポートを実施しています。

この栄養サポートを実践するチームを『栄養サポートチーム (Nutrition Support Team : NST)』と呼び、患者さん一人ひとりの栄養管理を担っています。

主な活動内容

- ・ 多職種による栄養アセスメントの施行
- ・ 適切な栄養管理が行われているかのチェック
- ・ 最も適切である栄養管理法の提言 (適切な栄養ルートの選択)
- ・ 栄養管理上のコンサルテーションに答える
- ・ 患者さん一人ひとりに合わせたオーダーメイドの栄養指導を実施

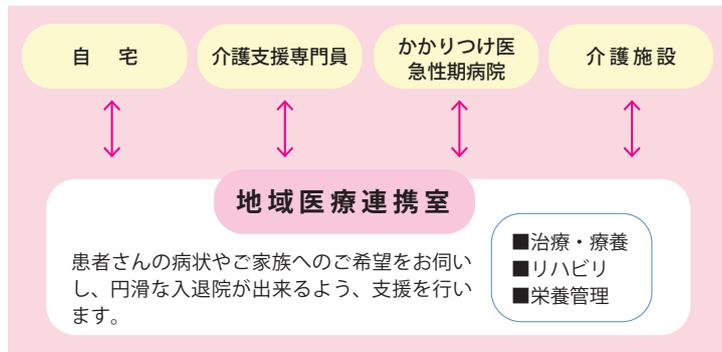
地域医療連携課 *Regional Medical Cooperation*

地域医療連携課は、地域の医療機関や在宅療養・介護を支える事業所と円滑に連携を行うための窓口を担っています。他医療・福祉機関との転院、受診調整業務をはじめ、緊急入院となった患者さんについては、かかりつけ医療機関への報告・連絡を行うなど、「地域医療連携」を推進しています。

退院後も安心した生活が送れるように、地域の介護・福祉事業所などと協力し、在宅復帰・施設入所に向けて支援を行います。また、患者さん・ご家族からの医療福祉相談窓口も担っています。

TEL : 0995-55-5227(直通) FAX : 0995-47-0772(直通)

対応時間 : 月～金曜日 9 : 00 ~ 17 : 00



通所リハビリテーション *Day rehabilitation*

当事業所では、利用者さんとその家族により良い支援を行い、笑顔になれる場所を提供します。

●リハビリテーション

専門スタッフが個別に対応、身体機能の維持・向上を目指します。

●遊بریテーション

楽しく活動しながら身体と心のケアをサポート、ゲーム等レクリエーションを通じ、楽しい時間を提供します。

●入浴サービス

安全で快適な入浴を提供、介助が必要な方も安心してご利用いただけます。

●食事サービス

栄養バランスを考えたおいしい食事を提供、お体に合わせた個別対応をしています。

●提供時間

平日、祝日 9 : 00 ~ 15 : 10 ●定休日 土日、年末年始 (12/31 ~ 1/3)

災害派遣医療チーム (DMAT)

DMATとは「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており、災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をとって略して「DMAT(ディーマット)」と呼ばれています。

医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され、大規模災害や多数傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。

当院は令和元年9月30日に鹿児島県DMATとして指定を受けました。各種訓練はもとより、新型コロナウイルスに対する鹿児島県広域医療調整チームや長崎県調整本部での活動実績があります。今後もいかなる災害にも対応すべく、技能維持訓練、実動訓練に積極的に参加し知識、技術の向上を図っていきます。

またDMAT以外にも、JMAT(日本医師会災害医療チーム)、AMAT(全日本病院協会災害時医療支援活動班)、JRAT(大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)、JDADAT(日本栄養士会)等に所属しており、災害時の医療体制強化に取り組んでいます。



Access



- 九州自動車道溝辺空港インターより車で20分
- 東九州自動車道隼人東インターより車で5分
- J R国分駅より車で10分
- J R隼人駅より車で10分

脳神経外科・整形外科・内科・血管外科・外科
救急科・循環器内科・リハビリテーション科

医療法人 健康会
霧島記念病院
Kirishima Memorial Hospital

〒899-4322 鹿児島県霧島市国分福島1丁目5-19

TEL:0995-47-3100 FAX:0995-48-7312

HP <http://kirishima-memorial.jp/>
mail:info@kirishima-memorial.jp

